

グリーン経営認証取得の成果の紹介

認証取得後1年目の定期審査時のアンケート項目「特に成果のあった取組」について
寄せられた皆様の声をご紹介します。(2024.04-2024.05)

【バス事業】

内容
エコドライブ推進運動にて営業所独自の取り組みとして、車両に備え付けの燃費計を活用し、燃費の見える化。その日の運転の仕方では燃費がどの位変わるのかを把握してもらうことにより、エコドライブ意識向上を図り燃費を上げることが出来ました。
グリーン経営認証取得してからは、車両故障件数は大幅に減少しました。
エコドライブ推進運動にて営業所独自の取り組みとして、車両に備え付けの燃費計を活用し、燃費の見える化を実施した。乗務員の意識向上が図れた。
走行キロ、使用期間に基づいた部品交換により、故障件数の削減に繋がったもの
運転日報を印刷し乗務員の運転内容をチェック。当社のエコドライブ推進運動中には終業点呼時に指定ダイヤにてその場で運転の振り返りを実施。アイドリングストップの励行、等速運転等、燃費の向上に役立っている。スイッチ付近にこまめな電源オフの掲示をすることで燃料だけでなく、節電、節水にもつながっている。
エコドライブの実践をしていくことで、速度超過が見られなくなり重大事故発生が無くなった。全般的に法定速度内での走行が見受けられる。①事故惹起者に対し自身の再発防止をしているがドライブレコーダーを有効活用して追跡調査。②OB運転士(高齢ドライバー)の事故多発 個々に再発防止目標を設定し日々の業務で実践する。③新人運転士同士で常務(ツーマン運行)をおこない、お互いの良いところ、悪いところを洗い出し今後の運転業務に活かす。この3点を取り入れ事故防止の取り組みを実践した。
企業送迎等の年間契約においては、アイドリングストップも会社間においては一定の評価を得れる。ただ、取組み当初より一年を通して季節感が薄れてきており、現場乗務員の健康管理にも注意する必要がある。現在は年中ずっとではなく期間を定めてアイドリングストップ強化月間として乗務員の士気を高めている。
当社では社員行動規範を制定し、「環境にやさしい行動」「地球環境の保護」について乗務員定期教育の必須項目としており、具体的な心構えと運転操作を誘導しております。また、「地球環境にやさしい」「エコ」「燃費向上」の観点からハイブリッド車両を導入していますが、ハード面(機械)による取組も大切なのですが、それを使うソフト(運転士)の意識が大切だと思っています。グリーン経営に対する意識改革の教育が成果に繋がると考えております。

【タクシー事業】

内容
・低公害車の導入について 令和5年度は6台のハイブリッド車両の導入を実現して、55台中50台がハイブリッド車両となった。 2025年完了目標であったが、2024年中に残り5台のハイブリッド車両の導入を目指し実践していく事で目標達成に進めていけるようにしていく。
エコドライブの取り組みによって、安全運転についても向上が見られ、事故件数の減少につながった。
燃費改善に伴う年間経費の削減・社内、車両の美化による 職員、乗務員の意識向上
乗務社員が燃費について、毎月しっかりと意識し、燃費の向上に取り組むようになりました。
1. アイドリングストップ車の導入が促進された 導入率100% (2024年5月現在) 2. 燃料使用量の削減と売上の向上を両立するため、乗務員の勤務の効率化を図った。 3. ドライブレコーダーによる運行状況の確認、運転指導により急発進等が減少し、事故の防止、燃費の向上につながった。

【港湾運送事業】

内容
安全意識の高まりから、荷役機器だけでなく、構内車や連絡車のタイヤの空気圧を意識するようになりました。さらに燃費も関係していることがわかり、チーム会などで情報提供し、車輛点検に一層注意を払うようになった。適正管理の重要性を再認識。
各フロア、細目な消灯を推奨、指示している。少しずつではあるが効果は出てきており、当該フロアに従業員がいない場合は消灯を実施できるようになってきた。
事務所においては、業務終了後PCやプリンターの電源を落とし、無駄な電力を使用しないよう努めている。また、毎週金曜の作業開始前に従業員が、毎週金曜の作業終了後に事務所スタッフが、各フロアの清掃を実施することを取り決め、これを実行できている。

【内航海運業】

内容
燃料使用に関し、効率を考えた速力維持で、燃料消費を抑える事が出来ている。

【トラック運送事業】

内容
・燃費の向上・車両事故件数の減少
ドライバーへ燃費意識を持たせる事ができた。その結果、わずかであるが無駄なアイドリングが減り、燃費削減に努めLEVO、環境優良者、補助金申請等で、グリーン経営認証事務所として評価が得られ助かっております。
・車両のエンジン系統に関する故障など減少しています
ドライバーのエコドライブの意識が変わってきたように思われる。ドライバー自身の燃費を気にする様になってきた。
・エコ運転推奨活動等での燃費向上効果（数値的には極僅かな効果）
車両別の燃費集計表（月間）を掲示する事でドライバーに周知してもらい燃費の向上につながっている。
オイル交換やエレメントの交換時期を乗務員がきにするようになった。
燃費向上のための急発進、急ブレーキ防止教育がデジタコ運転日報の点数向上という形で結果が出た点。
門前点呼に車両の点検を主任が整備管理者や所長とともに立ち会うことにより黒煙チェックをはじめ会社の環境保護の取り組みについて理解を深めており自らが率先して環境に配慮した運転を実行しています。
従業員の環境リスクに対する意識が定着してきていると感じています。燃料単価が高騰していることもあり、車両の燃費等を意識するドライバーが増えています。エコドライブを意識することで運転も穏やかになり、運転マナーに関する苦情件数減少していると思います。
短い時間の停車でも、アイドリングストップを心掛けるようになった。乗務員が毎月の燃費を気にする様になった。
⑦は荷主が環境に関する取り組みに関して高評価（自動車関連企業です）、⑩はGマークの評価項目「4 - (2)」で役立ちました。
・燃費管理（ドライバー個々に）意識するようになり給油量が減少した。（保有台数は変わらず）
貴事業所は『グリーン経営認証』の永年表彰を受賞した企業であることを全従業員が自覚しており、環境活動に対して従業員各自が常に高い意識を持ち、エコドライブ運転で燃費向上し、燃料の使用量削減などの継続行動を実践しております。多くの環境活動行動を実践していることで会社の経費削減にも貢献継続をしている。また、環境活動の取り組みとして実践しているドライブレコーダーで感知する速度超過や急発進、急加減速等を発生させないやさしい運転を全乗務員が心掛けておりエコドライブだけでなく、環境に配慮した安全運転で無事故継続も維持している。
いつもお世話になっております。成果があった件について、管理者が各車両に状況把握ができ、そのことを基にドライバーへの的確な指示ができるようになった。また、走行距離や整備管理・手順の標準化により、明確になった。

<p>燃費に関してはかなり頭打ち感があり、目標設定も表彰もマンネリ化していた。（H8年より燃費改善目標は半期ごとに設定し、達成者を表彰していた。）昨年、ドライバーからの提案で、毎月毎年同月比で目標を設定し、達成者を表彰してはどうか、ということになり、これを取り入れた。</p> <p>確かに6か月毎の評価の場合、頑張った月があっても表彰から消えてしまう。が、毎月毎年同期比となると、「今月はダメでも来月は頑張ろう」という気持ちになるようで、あきらめない機運が醸成された。事務の都合上、表彰は半期毎になるが、以前の「半期の表彰で1万円」に代えて「達成月毎に2千円」とした。6か月すべて達成すれば1万2千円となり従来より賞金が増える。たとえ1か月でも達成すれば2千円の賞金を手にすることができる。半期6か月は意外と長い。会社経営では中間決算という当たり前のスパンだが、彼らドライバーに決算は関係ない。動機付けの維持可能な時間としては1か月、長くても3か月（四半期）なのだろう。</p>
<p>ベテラン乗務員から新人乗務員への不要なもの（夏場のタイヤチェーンなど）を積まないように指導している姿を見て日々のグリーン経営の教育が根付いていることを感じています。</p> <p>特にこれがというものはありませんが、繰り返し指導、教育していくことも成果（燃費向上など）に繋がると考えています。</p>
<p>毎月の安全会議において燃費のランキングを表彰することによって士気が高まった。また事務所においては印刷物の再利用を担当を決めて行った結果、廃棄物が減った。</p>
<p>エコドライブの実践が無事故に繋がっており、協力会社へ安全についての適切な指導を行うことができたり、お客様から輸送のご相談を受ける機会が増えた。</p>
<p>グリーンエコプロジェクト参加。走行管理表にドライバーさんが走行距離・給油量・燃費を手書きで記入する習慣が確立された。</p>
<p>月間や年間での燃費を車両、個人各に報告しエコドライブを意識させ、全体での燃費向上へ繋げる事。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な車両の点検による、故障の減少 ・車間距離を多くとる事による事故の減少、走行クレーム等が無く、燃費の改善につながっている。
<p>月間燃費を把握することにより翌月の目標を設定しその目標に対してどうだったか、次は何に気をつけるのか具体的に組み立てるようになった。</p>
<p>燃費向上したかしないかは別として、ドライバーの取り組もうとする意識が向上した。</p>
<p>発進時、前車が発進してから4秒経過後にゆっくり発進することを社内ルールとしており、燃費が向上、後続に大型車がいることの威圧感による苦情が減少している。</p>
<p>構内での接触事故を除くと、当社が原因となる事故はなくなった。（路上、走行中）</p>
<p>毎日の日常点検や定期的な整備・点検結果をドライバー・管理責任者で共有することで、日々の取り組みが環境へどう影響し、エコドライブが安全運転に繋がるかという意識が向上している。</p>
<p>・認証取得以前から継続しているエコドライブ（アイドリングストップ含む）の更なる徹底により、燃費向上につながり</p>
<p>燃費データや点検表で数字が出てるので運転手が自覚を持って仕事をするようになりました。車両事故は減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車両故障・交通事故の減少 ・燃費向上について話し合いの場をつくりコミュニケーションが取れる様になった。 <p>燃費向上を意識する事で自然と“丁寧な運転”になり車両故障の減少につながった。</p>
<p>⑦について</p> <p>アイドリングストップ支援機器を導入し、燃費向上・深夜の騒音対策やドライバーの休息時の環境改善等に取り組んでおります。</p> <p>全体を通してまだ目に見えて大きく改善はしていませんが、お客様にもこういった取り組みをご理解いただけるよう活動していく所存です。</p>
<p>毎月の燃費目表を決め、車両ごとの燃費を前年度と対比し、各車各自がエコドライブに取り組める環境作りが、コスト削減につながっている。</p>
<p>月例会で安全運転につながるエコ運転の様に指導しているので事故はなかった。</p>
<p>定期的な整備を見える化することにより、車両の整備不良や故障は減少したと感じられます。</p>

<p>毎年、積載量別の燃費実績を確認することで個々乗務員に現状を把握してもらい燃費の向上に対して意識付けが出来るようになりました。1日では大きな変化はないものの1年というスパンで燃費の向上に心がけ毎年改善出来るよう今後も取組みたいと思います。</p>
<p>燃費の向上に取り組むことにより、安全への意識が高まり、交通事故件数の低下につなげる事ができた。</p>
<p>各車両ごとの燃費数値を各乗務員に伝えた事により、一部ではありますが数値を競い合うような事があり、燃費向上を意識した運転への意識向上が見られました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・新人教育時にドライブ教育を行うことによりプロドライバーへの意識付けに効果があった。 ・月次ミーティングにて乗務員に対しエコドライブ、環境関連法規制等の教育を行うことにより環境面に関心が向くようになった。
<p>直接的な取引条件の改善や売上増加にはつながっていないが、親会社や取引先からは評価を得られた。将来的にドライバー採用にもプラスになれば良いと考えている。</p>
<p>運送業界の協力会社から年1回の定期監査がありチェック項目にグリーン経営認証取得の有無の欄があるので有と言えるのは評価として大きい。</p>
<p>特に成果があったわけではないが燃費の把握から2024年問題において無駄な燃料浪費をドライバーに注意しやすくなった。(本人たちの意識はさほどですが)</p> <p>燃料漏れに対して荷主とのトラブル・環境汚染的な問題の意識をドライバーが多少はもってくれたように思える。(トラブルがあった場合の対応とか)</p>
<p>①定期点検の徹底 ②修繕費のグラフ化により、目標値を設定し、ドライバーを指導</p>
<p>年に一度、講師による安全運転講習会を開催しています。今年は近畿交通共済協同組合様から講師をお招きし、加害者の後悔・被害者遺族の悲しみや、一般的な交通事故防止対策、事業用トラックの交差点における死亡事故状況などのDVD鑑賞をしました。ドライブレコーダーの映像の検証、討議をしました。毎年講習会を行っている為、無事故無違反に繋がっていると思います。ドライバーに対して、エコドライブに関する教育、指導により燃費の削減につながっています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ドライバー自らが点検・交換等して現状把握することで、点検への意識向上、士気向上につながった。 ・燃費の目標に向けて思案することで意識の向上にもなっております。 ・新人教育において、燃費向上方法についての教育資料としても使用しておりました。
<p>ドライバーの車両への扱いがエコドライブなどの取り組みで少し丁寧になったように感じる。また、速度を抑えたりすることにより車両事故などの減少にも繋がった。</p>
<p>車両の取扱い・車両整備に対する取り組み姿勢が、グリーン経営を始める前の時に比べて、各段とスキルアップしたと感じています。故に、故障や事故が減り、燃費の向上と効果を立て続けに得ることが出来たと思っています。ほか、取引先や行政機関に対する環境配慮を実施している取り組み企業としてPR効果を得られています。</p>
<p>グリーン経営認証取得に向け、情報・データ整理を行うことで意識改革と共に知識を深める1歩となりました。従業員全体への研修や会議において活動内容や取組を発信することで、大きく従業員の意識改革につながっていきます。今後、新規事業・増台に向け社内認識向上と管理者育成に努めていきます。</p>
<p>燃費改善の為、車両毎及びドライバー別で燃費をエクセル等で記録。またデータを情報としてドライバーと共有する事で個々の意識も高まった。</p>
<p>10件から2件に減少した・点検、オイル交換等の正しい実行が徹底された。</p>
<p>燃料費の高騰もありエコドライブ走行に関心をもちながら取り組む事ができた。</p>
<p>燃費向上の為の施策として、上位のドライバーを掲示し社内でドライバーの燃費向上意識を醸成するとともに安全走行を確保させて車両事故並びに交通事故の減少に成果があった。</p>
<p>グリーン経営認証をきっかけにドライバーとの意識統一ができ、従業員教育、取り組みにおいて強調することができている。</p>
<p>①走行距離、給油量の把握とドライバーへの意識啓蒙による燃費向上</p> <p>②整備スタッフ強化(2名)により、車輛異常への早期対応により故障件数減少(大型修理への抑制)</p>

・タイヤの消耗スピードが落ち、交換サイクルが長くなった。・ドライバー各自の自主点検励行車両コンディションに対する意識が向上した。・速度超過数が減少した。
社員の燃費に対する意識向上
従業員の車両管理に対する意識が向上した。

【倉庫業】

内容
倉庫作業員（有資格者）によるフォークリフト年次点検を実施しており、日々の点検時にも、適切な空気圧を維持し、LPG使用量を制御する等行っている。
業務で使用しているフォークリフトの定期的な点検（始業点検、月次点検、年次点検）を確実に実施することで、フォークリフト故障による災害未然防止に繋がっている。また、アイドリングストップ活動においても、フォークリフトから離れる際は、フォークリフトのキーを抜きとることでフォークリフト取得者以外の乗車を防止することができ、災害未然防止となっている。
具体的な成果で一番大きなものは、取り組み当初の電気少量の削減であった。その他の項目については、効果はあるものの受身の仕事（営業倉庫）なので効果が限定される。 その他としては、エアコンの設定温度や照明器具について従業員全員が節電意識を持つことが出来た。
室員及び現場作業員で倉庫内及び事務所内の省エネに取り組んだ。
従業員に対してごみの分別、リサイクルについての説明会を実施し、リサイクルに対する意識が向上した。また、分別意識が高まることによって以前より構内がきれいになり、整理整頓がしやすい環境になった。
①倉庫内 D棟 F棟 LEDへ変更 ②リフト1台削減
廃棄物の発生量や電気・燃料使用量を目標値対比で管理することで、エコに対する意識が向上し、ムダな紙やムダな作業を発生させない取り組みに繋がった。
エコモ財団様から頂いたポスターを用い、朝礼等で節電を細目に行う様周知徹底した結果、皆が節電を意識し、取り組む様になりました。